

令和5年度 おなづか小学校校内研究

「明日も行こう」と思える楽しい学校

校内研究 テーマ

児童の自己肯定感や自己有用感を育む特別活動
～学級活動の充実を通して～

令和5年度は、「明日も行こう」と思える楽しい学校を目指して、1年間校内研究に取り組んできました。学級活動を充実させることで

- ・友達との関係が良好になる
- ・学級に自分の居場所ができる
- ・誰かのために活動する喜びを知ることができる
- ・友達と話し合う力を、他教科に生かすことができるようになる

等の効果が得られます。そしてそれが自己肯定感や自己有用感を高められると考え、年間を通して指導を行いました。

校内研究の成果

児童

・学級活動の話合いを主体的に進めよう、参加しようという児童が増えました。特に、学級みんなで行う集会活動の実施のために、意欲的に話し合いを行うことができるようになりました。

自分たちで話し合っただけで決めた集会活動を実施する経験を積み重ねることで、自分たちが主役になって学級を作ったり運営したりするのだという意識を高めることにつながります。

・学級活動以外の場面でも、話し合いを活用したり、合意形成を図ろうとしたりする姿が見られました。他教科の学習で話し合う場面において、以前よりも活発に話し合いを行うことができました。また、多数決に頼ることなく話し合いを行おうと取り組みました。

学級活動で身に付けた話し合う力を他教科に活用するためには、今後も指導を続ける必要があります。今年度で終わらせることなく、教師が意識して指導を行ってまいります。

・友達の意見をよく聞いて合意形成しようとしたり、譲ったりできる児童が増えてきました。授業以外の場面でも活用することができるようになりつつあり、人間関係を形成する意味で大切な成果だと考えます。

このような場面を見つけて価値付けることを行っていきます。また、このような場面を教師が意図的に設定することも行っていきたいと思います。

教師

- ・全教員が、共通の意識をもって、学級活動の指導をできるようになりました。
- ・児童の人間関係を築くために、学級活動を活用できるようになってきました。
- ・児童に身に付けさせたい力によって、指導の仕方を変えることができるようになってきました。